

予算決算委員会（全体会）記録

[後期全体会]

1 日時 令和6年10月16日（水曜日）

開 会 午後 1時07分  
閉 会 午後 1時25分

2 場所 議 場

3 出席委員 34人

委 員 長  
副委員長  
委 員

//

//

//

//

//

//

//

//

//

//

//

//

//

//

//

//

//

//

//

//

//

//

//

//

//

成 田 光 雄  
泉 岡 英 之  
金 藤 岡 貴 裕  
藤 柏 田 克 樹  
柏 飯 山 佳 枝  
飯 織 山 勝 彦  
織 澤 田 伸 一  
澤 高 田 田 和 秀  
高 田 原 裕 讓  
田 豊 岡 達 三  
豊 吉 田 修  
吉 久 保 大 憲  
久 松 井 邦 人  
松 金 谷 幸 則  
金 岡 部 智 享  
岡 舎 川 大 也  
舎 押 田 智 祐  
押 江 西 大 照 康  
江 高 田 西 照 里  
高 高 道 真 秋 彦  
高 東 島 眞 篤  
東 大 島 眞 滿  
大 谷 口 寿 一  
谷 松 尾 一 茂  
松 尾 上 雅 彦  
橋 本 一 雅 雄  
松 井 本 井 桂 将

委 員	村 石 篤
//	金 厚 有 豊
//	鋪 田 博 紀
//	高 田 重 信
//	赤 星 ゆかり
//	柞 山 数 男

4 欠席委員 0人

5 地方自治法第105条の規定により出席した者  
議 長 横 野 昭

6 職務のために出席した者

【議会事務局】

議事調査課長	鳥 取 則 子
議事調査課長代理	酒 井 優
議事調査課議事係長	土 方 智 樹
議事調査課主査	竹之内 慧
議事調査課主任	江 部 かな恵

## 7 会議の概要

委員長 ただいまから、予算決算委員会を開きます。  
本日の審査日程は、お手元に配付のとおりであります。  
これより、各分科会長の報告を求めます。  
まず、松井総務文教分科会長。

総務文教分科会長 総務文教分科会での審査につきまして、御報告いたします。  
当分科会では、送付されました決算案件3件の審査を行いました。  
以下、審査の概要を申し上げます。  
初めに、認定第1号中、選挙管理委員会事務局所管分の県議会議員選挙費について申し上げます。  
委員から、選挙公営のポスター掲示場について、いつも同じような場所に設置されているが、投票率向上のために、より市民に分かりやすい場所に設置する必要があると考える。設置場所について見直しを検討していないのかとの質問がありました。  
これに対し、当局から、ポスター掲示場は選挙ごとに大きさが変わりますが、どの選挙においても同じ場所に設置することができるということを1つの目安に設置場所を決めております。また、ポスター掲示場を同じ場所にすることで、市民の目に留まる機会を一貫させ、選挙が始まるという意識づけにも寄与すると考えています。そのため、ポスター掲示場の設置場所の見直しについては検討しておりませんとの答弁がありました。  
これを受けて、委員から、例えば、大きな公園などで、駐車場の入口付近にポスター掲示場を設置できるような場所があるにもかかわらず、人通りの少ない裏手に設置されているケースもある。投票率の向上につながるように、より効果的な設置場所、設置方法を検討してほしいとの要望がありました。  
次に、認定第1号中、企画管理部所管分の選ばれるまちづくり事業について申し上げます。  
委員から、移住支援金交付事業について、どのよう

な方が本市のどの地域に移住されたのかとの質問がありました。

これに対し、当局から、令和5年度は、30件、71人の方がこの移住支援金を活用されております。申請者である世帯主30人の内訳としまして、性別については、男性が17人、女性が13人、年代については、20代が5人、30代が14人、40代が8人、50代が2人、60代が1人、職業については、サービス業や介護事業などに就業された方が4人、本市で起業された方が7人、テレワークが17人、その他が2人となっております。また、居住地域につきましては、富山地域が29人、婦中地域が1人と、都市部への移住が多く、公共交通沿線へのニーズが高くなっておりますとの答弁がありました。

これを受けて、別の委員から、テレワークの方が17人いたとのことだが、昨今、大手企業を中心に、テレワークから職場勤務への回帰が見られる。そのことを踏まえて、今後、移住を働きかけるターゲットを見定めていく必要があると思うが、どのように考えているのかとの質問がありました。

これに対し、当局から、今後、Uターンも含めた若年層に対する働きかけをもう一度強化し、ターゲットを明確にしていきたいと考えておりますとの答弁がありました。

最後に、認定第1号中、企画管理部所管分について、次のような意見の表明がありました。

まず、反対意見について申し上げます。

シクロシティ株式会社に対し、シテイスケープへのポスター掲出費用として企画管理部所管分で支出した約2,000万円は、富山市とシクロシティ株式会社が自転車シェア事業「アヴィレ」を始めるため、平成21年10月に交わした契約を基に支出されたものである。

富山市ガラス美術館からの支出は、ポスター1か所とガラス作品展示3か所で年間1,035万円余りと、極めて高額な支出となっているが、この金額の根拠について納得できる説明がない。

また、広報課からの支出は平成30年度から急に約700万円増え、年間941万円余りとなっており、これは明らかにシクロシティ株式会社に業務の対価として支払う金額を増額した契約のとおりとなっている。

同じポスター展示と比べても、本当に必要な費用を精査したと言えるのか、疑問が尽きない。この契約に基づくこれまでの支出総額は、一般会計分と市民文化事業団分を合わせて、広告費だけで約3億7,000万円にもなっている。

本来、予算をもっと効果的に使えたり、節減できるところを無駄遣いしていると言わざるを得ない。今も低い利用状況にあるアヴィレの運営費を補填する契約だが、あと15年もある契約を見直す姿勢も一向に見えないという観点からの反対意見がありました。

次に、賛成意見について申し上げます。

シクロシティ株式会社等の広告パネルについては、統一されたデザインや規格で、照明もついているため、昼夜問わず本市の景観にすっきりなじんでおり、都市デザインの1つとなっていると考える。

この広告パネルを使って、市民や来街者に本市の取組や様々なイベントについて告知することで、市の政策や文化事業に対する関心を高める効果が十分あると考える。

ガラス美術館をはじめとする各担当課においては、その効果を見定めて広告を掲出されており、行事やイベントごとにそれぞれ検討した結果として予算額、掲出期間に差が出ていると理解していることから、シクロシティ株式会社の広告パネルを使った事業は極めて妥当なものであると考えるという観点からの賛成意見がありました。

以上、総務文教分科会の分科会長報告といたします。

委員長

ただいまの分科会長報告に対する質疑に入ります。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長 質疑なしと認めます。  
次に、久保厚生分科会長。

厚生分科会長 厚生分科会での審査につきまして、御報告いたします。  
当分科会では、送付されました決算案件7件の審査を行いました。  
以下、審査の概要を申し上げます。  
初めに、認定第20号 令和5年度富山市病院事業会計決算について申し上げます。  
委員から、出産数の減少が進む中、富山市民病院の産婦人科の稼働率が上がっていると聞いているが、その背景と今後についてどのように考えているのかとの質問がありました。  
これに対し、当局から、市民病院の産婦人科の入院者数及び稼働率については、概ね微増傾向となっております。市民病院は、平成21年より無痛分娩を行っておりますが、妊婦さんへの負担がより少ない無痛分娩を希望される方が近年増加しており、無痛分娩ができる病院として、市民病院での出産を選択されるのではないかと考えております。今後につきましても、無痛分娩により出産ができる病院として、出産数の減少が進む中においても、一定数の需要が見込まれると考えておりますとの答弁がありました。  
次に、認定第1号中、市民生活部所管分の町内会アンケート調査事業について申し上げます。  
委員から、町内会アンケート調査により、どのような課題が見えてきたのか。また、課題についてどのように分析しているのかとの質問がありました。  
これに対し、当局から、アンケート調査では、総会などへの参加状況や、町内会費の徴収、町内会活動の状況、運営の課題等について聞いております。  
見えてきた課題として、1つに、町内会の役員や活動の担い手が不足していること、2つに、長年続く町内会の自主的な活動が慣例化してなかなか変えられないこと、3つに、各種委員への就任や行事への参加といった行政などからの依頼に対する負担感があるといったことが挙げられます。これらの課題か

ら、町内会の負担感を軽減することなど、本市として複合的に取り組み、どのような施策が有効なのかを検討したいと考えておりますとの答弁がありました。

なお、全ての案件について意見の表明はありませんでした。

以上、厚生分科会の分科会長報告といたします。

委員長 ただいまの分科会長報告に対する質疑に入ります。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長 質疑なしと認めます。  
次に、金谷経済環境分科会長。

経済環境分科会長 経済環境分科会での審査につきまして、御報告いたします。

当分科会では、送付されました決算案件7件の審査を行いました。

以下、審査の概要を申し上げます。

初めに、認定第1号中、環境部所管分のごみ減量化・資源化推進事業費について申し上げます。

委員から、集団回収活動推進事業のうち、資源集団回収について、回収量、実施団体ともに減少傾向にあるが、その要因をどのように分析しているのかとの質問がありました。

これに対し、当局から、資源集団回収は、学校のPTAや町内会などが実施主体となって実施され、回収量全体の半分を新聞紙が占めておりますが、新聞紙の回収量がピーク時の半分以下となっていることや、コロナ禍において、実施回数を減らしたり、廃止したりするなどの対応をされ、新型コロナウイルス感染症の五類移行後も回復していないことが要因と考えておりますとの答弁がありました。

次に、認定第1号中、商工労働部所管分の勤労者雇用対策費について申し上げます。

委員から、障害者雇用奨励金について、総合計画目

標とする指標である障害者法定雇用率達成割合が苦戦しているように見えるが、その理由をどのように考えているのかとの質問がありました。

これに対し、当局から、障害者法定雇用率については、事業主に課された義務であり、さらに国においては、段階的に法定雇用率を引き上げるとともに、従業員の少ない事業所にも対象を広げることで、障害者の雇用促進を図ろうとしております。こうした国の動きもあり総合計画の目標とする指標である県内事業所の法定雇用率達成割合の達成は、なかなか難しいところではあります。障害者の実雇用率は増加しておりますので障害者雇用への効果は出ていると認識しております。また、富山労働局においては未達成の事業主への指導を行っており、国、県と連携しながら、障害者の雇用促進に取り組んでいきたいと考えておりますとの答弁がありました。

また、別の委員から、若年者就職支援事業について、企業説明会に参加した学生のうち、富山市内で就職した学生の数は把握しているのかとの質問がありました。

これに対し、当局から、企業説明会に参加した企業、学生に対して追跡調査を行っておりますが、実際に富山市内の企業に就職したのかどうかは把握しておりませんとの答弁がありました。

これを受けて、委員から、学生が企業説明会に参加した後、どのような企業に就職したのか、また県外に行ってしまったのかなどのデータを蓄積していけば、最終的にいろいろな施策を展開できると考える。企業説明会に参加した学生のその後のデータを取って、今後活用できるようにしてほしいとの要望がありました。

なお、全ての案件について意見の表明はありませんでした。

以上、経済環境分科会の分科会長報告といたします。

委員長

ただいまの分科会長報告に対する質疑に入ります。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長 質疑なしと認めます。  
次に、押田建設分科会長。

建設分科会長 建設分科会での審査につきまして、御報告いたします。  
当分科会では、送付されました決算案件6件、その他の案件3件の審査を行いました。  
以下、審査の概要を申し上げます。  
初めに、認定第1号中、消防局所管分の分団運営活動費について申し上げます。  
委員から、富山地方鉄道株式会社の路面電車にラッピングを施した「ファイトラム」の運行により、どのような成果があったのかとの質問がありました。  
これに対し、当局から、「ファイトラム」につきましては、令和5年9月から令和6年2月までの6か月間、南富山駅・富山大学前駅間を運行いたしました。「ファイトラム」が運行していた期間の消防団員の入団者数は、前年同時期と比較して、約3.5倍となっております。また、令和5年度の消防団員の入団者数は前年度から3割増となった一方で、退団者数は3割減となっており、一定の効果があったものと考えておりますとの答弁がありました。  
次に、認定第17号 令和5年度富山市水道事業会計決算について申し上げます。  
委員から、令和6年能登半島地震の際に、応急給水活動のために給水車が出動したとのことだが、現在何台の給水車を保有しているのかとの質問がありました。  
これに対し、当局から、本市では、加圧給水車を3台保有しており、上下水道施設管理センター、東上下水道サービスセンター、西上下水道サービスセンターに各1台ずつ配備し、それぞれの地区で断水や水質事故が発生した際の初動活動に使用しておりますとの答弁がありました。  
これを受けて、委員から、地震や洪水、水道管の破損事故など緊急時の安心・安全や、富山県の中核都

市として、他の市町村で給水車の整備が遅れた場合のことも考慮した準備が必要だと思うが、どのように考えているのかとの質問がありました。

これに対し、当局から、本市では、災害や水質事故への初動対応のため、加圧給水車3台以外にも、無加圧式の給水タンクを23基整備しております。災害時には、富山市管工事協同組合との協定に基づき提供を受けるトラックに給水タンクを搭載し、合計26台で対応することとしております。なお、令和6年能登半島地震の際には、保有する加圧給水車3台を全て富山市内で使用していたため、氷見市からの応援要請への対応が、ほかの自治体に比べて2日ほど遅れました。県外等で災害が起きた場合のことを考え、加圧給水車の予備的な保有などの必要性について、今後検討していく必要があると考えておりますとの答弁がありました。

なお、全ての案件について意見の表明はありませんでした。

以上、建設分科会の分科会長報告といたします。

委員長 ただいまの分科会長報告に対する質疑に入ります。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長 質疑なしと認めます。  
以上で、質疑は終結いたしました。  
これより、認定第1号を起立により採決いたします。  
本案件について、認定することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

委員長 起立多数であります。  
よって、本案件は認定することに決しました。  
次に、議案第157号から議案第159号まで、及び認定第2号から認定第20号まで、以上22件を一括して採決いたします。

各案件は、原案可決・認定することに、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

委員長

御異議なしと認めます。

よって、各案件は原案可決・認定することに決しました。

これで、当委員会に付託されました全案件の審査は終了いたしました。

委員各位に御相談申し上げます。

委員長報告については、正・副委員長に御一任願いたいと思いますが、いかがでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

委員長

それでは、そのように取り計らいます。

これをもって、予算決算委員会を閉会いたします。

令和6年9月26日、10月16日  
予算決算委員会（全体会）記録署名

委員長 成田光雄

署名委員 吉田 修

署名委員 舎川智也